

目 次

『英文法大事典』の刊行にあたって	iii
まえがき	ix
例の提示に関する但し書き	xiv

第 I 部 英文法の概観

Geoffrey K. Pullum and Rodney Huddleston

第1章 本シリーズのねらい	2
第2章 規範主義，伝統，そして文法の正当化	10
2.1 規範的アプローチと記述的アプローチ：目的と対象範囲	10
2.2 記述的アプローチと規範的アプローチの意見の不一致	13
第3章 話し言葉と書き言葉	25
3.1 発音の表示体系	28
3.1.1 r音なまりと非r音なまり	29
3.1.2 変種に中立的な音韻表示	32
3.2 発音とつづり	37
第4章 理論的枠組み	40
4.1 記述と理論	40
4.2 統語論における基本概念	43
4.2.1 構成素構造	44
4.2.2 統語範疇	46
4.2.3 文法構造と文法機能	50

4.3	形態論：屈折形態論と語彙形態論	57
4.4	文法概念の定義	61
第5章	意味論，語用論，そして意味関係	73
5.1	真理条件と論理的含意	74
5.2	文の意味の非真理条件的側面	78
5.3	語用論と会話の推意	82
5.4	語用論的前提	88

第 II 部 統語論概観

Rodney Huddleston

第1章	文と節	94
第2章	基本節と非基本節	98
第3章	動詞	108
第4章	補部となる節	116
第5章	名詞と名詞句	122
第6章	形容詞と副詞	130
第7章	前置詞と前置詞句	133
第8章	付加部となる節	136
第9章	否定	139
第10章	節のタイプと発話力	145

第11章	内容節と引用話法	148
第12章	関係節と非有界的依存関係	151
第13章	比較構文	154
第14章	非定形節と動詞を欠いた節	157
第15章	等位と補足	161
第16章	情報パッケージ	164
第17章	直示と照応	170
	文献情報	173
	参考文献	185
	索引	197
	原著者・編集委員長・監訳者・訳者紹介	202